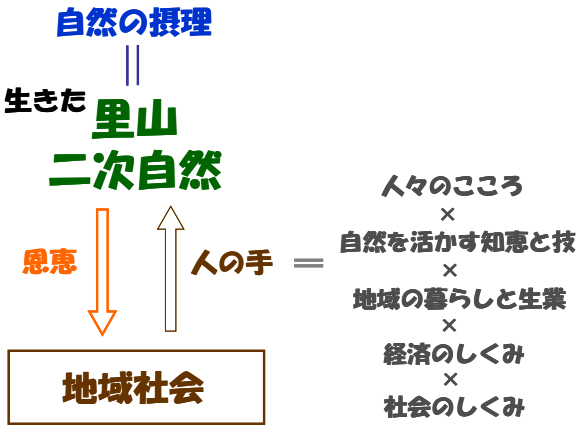
加美町地域エネルギー活用調査・企画事業の考え方



私たちは昔からいろいろな恩恵を自然から受けて暮してきました。そこでは人々は自然の摂理に沿って“人の手”を加え、持続可能なように、食べ物やエネルギー、資材などを得てきました。この自然の摂理と“人の手”によって、里山や田畑など“二次自然”と言われるものが長い歴史のうちに形成され、それが地域の生活を支えるとともに、環境と共生する社会をつくってきました。

地域の自然エネルギーの利活用においても、地域の“人の手”が不可欠です。例えば木質バイオマスエネルギー、すなわち森林資源の活用では、木を伐り出し、運び出し、加工し、それを使うところまで運ばなければなりません。水力エネルギーの利用では、常日頃の水路や水車の管理が欠かせません。太陽光パネルにしても、それが社会に広く普及するためには地域の業者による設置や維持管理が不可欠です。また、自然エネルギーは地域に薄く広く分布し、その特性も地域によって大きく異なります。地域の自然や暮しは地域の人々が一番良く知っています。ここでも地域の人々の知識や知恵が不可欠です。

このように我々は昔から自然に“人の手”を加え、その恩恵に浴していたわけですが、永続的にこの“人の手”を加え続けることは容易ではありません。“人の手”を加え続けるためには、①地域のエネルギーや資源を利活用しようとする「人々のこころ」、②それを可能にする「知恵と技」、③単なるボランティアや趣味ではない、「地域の暮しや生業」としての人の手、④そのような暮しや生業を可能とする「経済のしくみ」、そして、⑤補助制度や支援制度、施策等、それを支える「社会のしくみ」、の全てがそろっていなければならないからです。

我が国では、昔からこのような、５つの要素が全てそろった地域のエネルギー・資源を利活用する社会をつくりあげてきたのですが、化石燃料の利用とそれにともなうエネルギー多消費型の社会の進展にともない、足元にある地域のエネルギー・資源すら活用しない社会になってしまいました。今、地域のエネルギー・資源の利活用による安全・安心な豊かな暮し、地域の活性化、我が国のエネルギー需給のグリーン化、温暖化ガスの排出削減、そして生物多様性の保全のために、もう一度地域においてこれら５つの要素を総合的に再構築する取り組みが必要とされています。

このような総合的な取り組みは、単なるハコモノの設置や行政主導では実現しません。それは行政や産業界ばかりではなく、地域の人々、そして外部有識者や組織等との“協働”によって初めて可能になります。

暮らしや産業に必要なエネルギーとは、そもそも人々の営みや生業と切っても切り離せないものです。そのため、地域エネルギーの利活用は、生活者、生業からの視点と、地域の人々自

らの取り組みが不可欠です。このため本事業では、エネルギーやその利用設備を出発点にするのではなく、生活者や生業といった需要側から地域エネルギーの利用について、町民のボトムアップによる議論や取り組みを重視し、それらを行政や有識者が下支えする形ですすめてきました。

本事業の目的は一朝一夕に達成できるものではありません。そこでは長期的視野に立った息の長い総合的な取り組みが必要です。平成２４年度の事業は協働による町づくりのスタートであり、町民と行政が一緒に地域にあるエネルギーを調査して可能性を考える、いわば「土づくり」と「種まき」にあたります。

したがって、本年度の事業では、地域にあるエネルギーの利用可能性を町民の生活や生業の視点から、地域住民と協働でそれらを掘り下げることを目的としました。そこでは、地域の暮しとエネルギーの関わりをみつめ直すため、昔使われていた地域のエネルギーと、それをとりまく社会の仕組みを調査しました。また、地域のために活用できそうな地域のエネルギーを考え、地域の地産地消のエネルギー利活用モデルを考えました。さらに、公共施設のエネルギー需給を見直し、安全・安心なエネルギーシステムについて考えました。